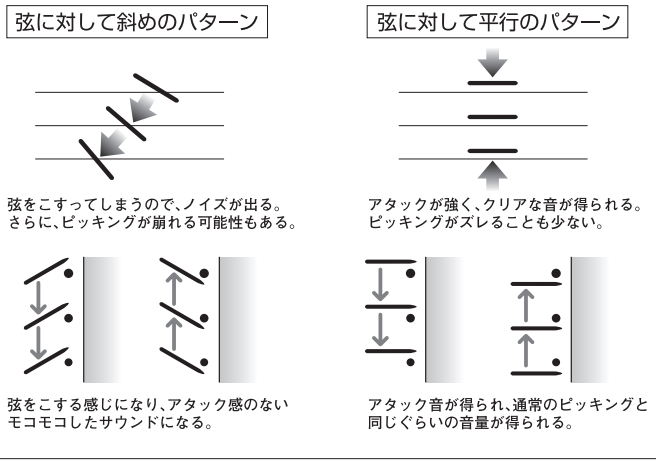
注意点1 右手

スウィープの角度と軌道は平行気味かつ真っ直ぐに！

まずは、スウィープ・ピッキング時のピックの角度と軌道を覚えよう。80年代には、スウィープは“ピックの角度を斜めにして弾け”と雑誌によく書いてあったが、現在ではダウンもアップも“弦に対し平行気味に真っ直ぐの軌道で行なう”というのが一般的だ（図1）。前者が避けられている理由としては、弦に対してピックに角度をつけると、弦を擦るノイズが出てしまうだけではなく、ピックがズレて通常のピッキングより音が小さくなる可能性が出てくることが挙げられる。実際に弾く際には、弦に対してピックを平行気味に当て、ダウンによる上昇ではピックと親指で弦を押していく感じで、アップによる下降ではピックと人差指で階段を登っていく感じでピッキングすると良いだろう。

図1　ピッキングの角度

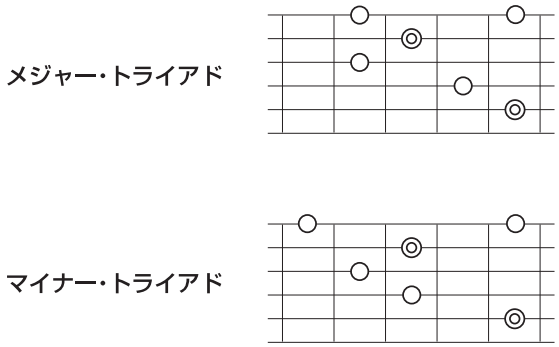


注意点2 理論

2種類ある5弦ルートのコード・トーンを覚えよう

このフレーズを弾く前に、まず小指からスタートする5弦ルートのコード・トーンを覚えよう(図2)。メジャーとマイナーでは、1音目（ルート音）の次に来る2音目（3度の音）が異なっているが、3度の音を薬指で押弦するのがメジャー、薬指以外の指で押弦するのがマイナーだと覚えれば良いだろう。実際に弾く際には、上昇はダウンのスウィープで1弦まで弾き、1弦の小指による押弦音はアップで弾く。下降は1弦の小指による押弦音のダウンから始まり、続く1弦の人差指による押弦音のアップからスウィープに入っている。上昇では1弦にハンマリング、下降では5弦にプリングを入れたくなるが、スウィープはリズムの制御がポイントなので、譜面のピッキング指定は必ず守って弾こう。

図2　5弦ルートのメジャー&マイナー・トライアド　◎ルート音



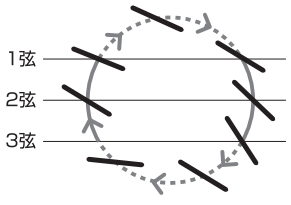
～コラム35～

地獄の戯れ言

スウィープ・ピッキングの弾き方は、このテクニック自体が未完成だったため、これまでさまざまな見解が登場してきた。80年代のギター雑誌ではおもに2種類の弾き方が紹介されていたが、現在となってはどちらもオススメできない。その1つは注意点1で解説したピックを弦に対して斜めに構えるタイプで、上昇と下降でピックの角度を変えなければならず、特に細かいエコノミー・フレーズでは無駄が多い。もう1つはサークル・ピッキング（図3）で、弦に対してのピックの角度は不定で、ノイズも多く、しかもリズムが取りづらいのだ。読者には、注意点1で紹介した現代的な弾き方を必ず守ってほしい。

80年代に紹介されていたスウィープのピッキング・パターン例

図3　サークル・ピッキング



・弦に対するピックの角度が不安定。
・擦るようなピッキングのためノイズが多い。
・リズムが取りづらい。